

特集「若手研究者」の編集にあたって

柴山 悦哉^{1,a)}

情報処理技術のさらなる発展のためには、学生を含む多くの若手研究者が、自由な発想や好奇心に基づき研究を進めることが重要である。そのための環境を整えること、すなわち、次世代を担う若手研究者の活動支援を行うことは、情報処理学会の重要な責務の1つである。本特集号は、若手研究者の活動を支援することを目的に2014年より実施しており、今回が4回目となる。

本特集号編集委員会は、論文誌ジャーナル編集委員会から、編集委員としての経験が豊富なメンバを集めて構成した。そして、編集作業を進めるにあたっては、タイムリかつスピーディな論文掲載となるように努めた。

投稿は6月6日に締切り、論文誌ジャーナルに投稿された和文論文の総数が25件、Journal of Information Processing (JIP) に投稿された英文論文10件を合わせると計35件に達した。メタレビューアを決定する第1回編集委員会はオンラインで開催し、6月19日まではメタレビューアの割り当てを行った。第2回編集委員会は8月29日、第3回編集委員会は11月28日に開催し、最終的に10件、JIPと合わせて計14件の論文を採録と判定した（採択率40%）。投稿締切から1回目査読判定結果の著者への通知に約3カ月、最終判定の通知までにはさらに約3カ月を要した。

編集委員会では、論文の良いところを積極的に評価する、新規性あるいは有用性の一方が弱いことのみを理由として不採録判定を行わないなどの原則に則った審議を行った。これらの方針は、論文の採択数を増加させる傾向があると思われる。一方で、タイムリな論文掲載のために照会期間が通常より短いこともあり、大幅な論文修正をとまなう条件付採録の判定は行わず、むしろ早めに不採録の判定とコメントを著者に返し、再投稿を促す方針とした。この方針は、論文の採択数を減少させる可能性がある。しかし、2回目の査読で不採録となるリスクも考慮したときに、なるべく早く掲載に至る確率が高そうであることを重視し、このような方針とした。

本特集は、多くの皆様のご協力に支えられて刊行に漕ぎ着けることができた。ご投稿いただいた会員の皆様、丁寧な査読にご尽力いただいた査読者の皆様、論文審査にご尽

力いただいた本特集号編集委員の皆様、編集委員会の活動をご支援いただいた学会事務局の皆様に、心より感謝する。

「若手研究者」特集号編集委員会

- 編集委員長
柴山悦哉（東京大学）
- 副編集委員長
相澤彰子（国立情報学研究所）
- 幹事（五十音順）
浅井信吉（会津大学）
沖野浩二（富山大学）
関野 樹（国際日本文化研究センター）
渡辺博芳（帝京大学）
- 編集委員（五十音順）
市野将嗣（電気通信大学）
大平雅雄（和歌山大学）
菊地奈穂美（沖電気）
末代誠仁（桜美林大学）
島岡政基（セコム）
田中勇樹（群馬大学）
豊浦正広（山梨大学）
野呂正明（富士通研究所）
波多野大督（理化学研究所）
松島裕康（東京大学）
真鍋宏幸（NTT ドコモ）

¹ 東京大学

The University of Tokyo, Bunkyo, Tokyo 113-8658, Japan

^{a)} etsuya@ecc.u-tokyo.ac.jp